

せきようしゃ よしだ こういち 石陽社をささえた吉田光一

石川町には、河野広中とともに、自由民権運動を進めた中心的人物として、神官の吉田光一や大庄屋の鈴木重謙、士族の笠原忠節などがいました。

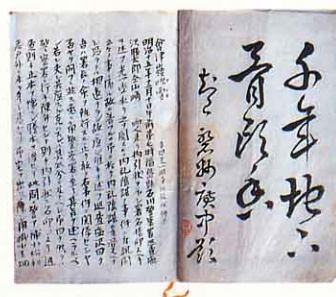
特に吉田光一は、後に初代石川町長にもなった人で、石陽社幹事として東北各地を歩いてまわり、国会を開き憲法をつくることの大切さを、民衆にうったえつづけました。県会議員になった時は、県令(現在の県知事)を批判する演説などをおこない、福島事件では逮捕されることもありました。吉田光一の日記「会津嶺吹雪」には、そのころの苦しい日々の様子がよくわしく書かれています。



吉田光一(1845~1895)



会津嶺吹雪原
本と会津高校
出版の本



| 吉田光一年表 | |
|--------|---------------------------|
| 年 | できごと |
| 一八四五 | 石都々古和氣神社の神職吉田光長の長男として生まれる |
| 一八七五 | 河野広中と知り合い、自由民権運動に参加する |
| 一八七九 | 同志募集のため、東北各地を歩く |
| 一八八一 | 県会議員に当選 福島事件で逮捕される |
| 一八八三 | 逃亡生活を送る |
| 一八八九 | 会津嶺吹雪をかく |
| 一八八九 | 石川村長となる |
| 一八九〇 | 国会開設 |
| 一八九二 | 石川義塾(学法石川)の設立を助ける |
| 一八九四 | 初代石川町長になる |
| 一八九五 | 五十一歳、病気でなくなる |



吉田光一生家(下泉)